

インシデント・プロセス法(参考)

- ・ 事例研究の一つの方法。
- ・ 「インシデント」・・・小さな出来事, 事件 「プロセス」・・・状況, 状態
- ・ アメリカマサチューセッツ大学教授 ポール・ビゴーズが考案
- ・ 事例提供者の 短い象徴的な出来事 に対して, 参加者が質問をしていくことによって「事例の概要を明らかにしながら, 対応策等を討議していく方法

(1) 特徴と効果

参加者が事例提供者に質問することによって, 問題の概要を明らかにしていく手法であることから次のような効果がある。

- ① 事例提供者の資料作成が容易である。
- ② 事例提供者に質問しなければ必要な情報を得ることができないため, 問題への積極的なかわりが期待でき, 情報収集力も培うことができる。
- ③ 原因究明や問題解決に必要な情報を, 限られた時間の中で, 質問によって得なければならないため, 的確な質問力を養うことができる。

(2) 進め方

【事前準備】

- ① 事例提供者を選出する。
- ② 事例提供者は簡潔に事例の要点をまとめておく。
- ③ 指導助言者を招聘する。

【第1段階】

事例提供者が事例を発表する。

【第2段階】

参加者が事例の背景等を明らかにするために事例提供者に質問をする。

【第3段階】

対応策を個人で考える。(個人ワーク)

- ・ 何が問題なのかを押さえながら, 今後の対応について当事者になったつもりで, 支援の方向性や対応策をワークシート等に記入する。

【第4段階】

当面の問題の対応についてグループで考える。

- ① 参加者は, 4~5人のグループで当面の対応策について, 個人で考えた対応策をもとに, 話し合い, グループの考えとしてまとめる。
- ② 発表者を選定しておく。
- ③ 発表者は, グループでまとめた対応策等を発表する。

【第5段階】

指導助言及び対応策についてのまとめをする。

- ① 事例提供者は、指導の実際や感想について話をする。
- ② 指導助言者は、対応策やその留意点について話をする。

【第6段階】

振り返る

・この研修を振り返っての感想や何を学んだかを発表し合う。

(3) 実施上の注意

- ① 進行役は、参加者の質問によって問題の背景を探っていくため、積極的な質問を促すようにする。
- ② 質問は一问一答式で具体的な内容を聞くようにする。
そのとき、次のような点に留意して質問するようにする。

- ア 簡潔に質問する。
- イ 具体的な質問をする。
- ウ 重複した質問はしない。
- エ 関連した質問をする。
- オ 事例提供者の推測や感想を求めない。
- カ 質問する場合は自分なりに事例の全体像を考えながら質問する。など

- ③ 質問は問題の解明を見いだすためのものであり、事例提供者を責めるような質問は絶対にしないようにする。
- ④ 個人で考えている際でも、必要に応じて、再度質問を認めるようにする。
- ⑤ 実例を扱うため個人のプライバシーには十分に配慮する。